

10

主 題：訪問マッサージにおける機能訓練サービスの可能性について

副 題：施設患者様への定期訪問、機能訓練の実践と効果検証

部 門： 施設 在宅 地域包括ケア 市民活動

事業所種別・名称 訪問マッサージ ダヴィンチ治療院

発表者： 神田 裕幸

アドバイザー：

共同者：田中 一世、村上 祐二

電 話： 042-703-8137

e-mail：davincitherapist@gmail.com

FAX： 042-703-8138

URL：

今回の発表の事業所  
やサービスの紹介

当院では、町田市を中心に医療保険を用いた訪問マッサージを行い、13年目に入りました。在宅や高齢者施設の患者様においてマッサージの実施、加えて機能訓練を行い、多様化する医療ニーズへとお応えしています。

## 《1. 研究前の状況と課題》

訪問マッサージでは、今年の10月1日から、新たに『訪問施術制度』が導入となりました。定期的な訪問、同一日・同一建物への訪問についての明記がなされ、訪問人数により報酬金額も細分化されました。同施設内にて1日に複数人（5～9人、10人以上）施術することを想定した改正内容となっています。

## 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

当院では、今回、訪問施術制度の導入に先駆け、同一施設内において、1日に複数人を続けて施術することを試みました。その中で、現状の訪問形式とどのような違いが生じるか、検証しようと思います。また、患者様の運動機能面に着目し、各々に合わせた機能訓練を実施し、訪問マッサージによる機能訓練指導の実用性について見定めたい考えです。

## 《3. 具体的な取り組みの内容》

新型コロナウィルス感染対応から、4年以上訪問を中断していた施設から、10名の患者様を同時期にご紹介頂きました。その中の7名（要支援2～要介護5）において、連続して施術する形で、週2回、各々30～40分の施術を行いました。2か月半にわたり訪問を行い、介入前に比べ、どのような状態変化が患者様達に生じたのか、発表をいたします。

## 《4. 取り組みの結果と考察》

要支援2、要介護1である2名の方は、それぞれ車椅子、歩行器での自走が可能であり、主に歩行の改善に向けて介入します。車椅子から歩行、歩行の安定性に繋がったか説明いたします。要介護3～5の5名の方については、ベッドでの臥床もしくは車椅子での生活習慣となっています。起居動作の改善、臥床から離床に向けた訓練を実施し、どのような効果を得たのかについて説明いたします。

## 《5. まとめ、結論》

週2回ではありますが、事前の身体評価を綿密に行うこと、目標設定を図ったうえで介入することで、運動面における改善効果が得られやすくなります。臥床状態からの改善は難しいですが、筋や関節の可動性・柔軟性を向上することで介助量の軽減などが図れます。訪問マッサージにおいても、運動面における改善性への期待は十分に持てると思います。

## 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、施設名や個人情報流出を避け、個人の特定がなされないよう配慮いたします。

## 《7. 参考文献》

なし